

# 三国志 群雄太守県令 勢力図 (上)

長田 康宏

(おさっち／織風齋)

## 目次

はじめに.....	5
本書の読み方.....	5
司隸校尉部 中平元(184)年～中平五(188)年.....	6
司隸校尉部 中平六(189)年～初平二(191)年.....	10
司隸校尉部 初平三(192)年～建安元(196)年.....	14
司隸校尉部 建安二(197)年～建安十一(206)年.....	19
司隸校尉部 建安十二(207)年～延康元(220)年.....	22
司隸校尉部 郡県データ・出身者一覧.....	25
予州刺史部 中平元(184)年～六(189)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
予州刺史部 初平元(190)年～三(192)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
予州刺史部 初平四(193)年～興平二(195)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
予州刺史部 建安元(196)年～建安四(199)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
予州刺史部 建安五(200)年～十三(208)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
予州刺史部 建安十四(209)年～延康元(220)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
予州刺史部 郡県データ・出身者一覧.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 中平元(184)年～六(189)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 初平元(190)年～二(191)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 初平三(192)年～四(193)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 興平元(194)年～建安四(199)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 建安五(200)年～九(204)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 建安十(205)年～十八(213)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 建安十九(214)年～延康元年(220)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
冀州刺史部 郡県データ・出身者一覧.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 中平元(184)年～中平(190)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 初平元(190)年～三(192)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 初平四(193)年～興平二(195)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 建安元(196)年～四(199)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 建安五(200)年～十一(207)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 建安十二(208)年～延康元(220)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
兗州刺史部 郡県データ・出身者一覧.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
徐州刺史部 中平元(184)年～五(188)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
徐州刺史部 中平六(189)年～初平四(193)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
徐州刺史部 興平元(194)年～建安元(196)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
徐州刺史部 建安二(197)年～五(200)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
徐州刺史部 建安六(201)年～延康元(220)年.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
徐州刺史部 郡県データ・出身者一覧.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

青州刺史部 中平元(184)年～初平三(192)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 青州刺史部 初平四(193)年～建安五(200)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 青州刺史部 建安五(200)年～建安十二(207)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 青州刺史部 建安十三(208)年～延康元年(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 青州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 荊州刺史部 中平元(184)年～初平元年(190)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 荊州刺史部 初平二(191)年～建安五年(200)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 荊州刺史部 建安六(201)年～十一(207)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 荊州刺史部 建安十三(208)年～十九(214)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 荊州刺史部 建安二十(215)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 荊州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 中平元(184)年～六(189)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 初平元(190)年～四(193)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 興平元(194)年～建安二(197)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 建安三(198)年～五(200)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 建安五(200)年～十三(208)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 建安十四(209)年～十八(213)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 建安十九(214)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 揚州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 益州刺史部 中平元(184)年～六(189)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 益州刺史部 初平元(190)年～興平元(194)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 益州刺史部 興平二(195)年～建安五(200)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 益州刺史部 建安六(201)年～十八(213)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 益州刺史部 建安十九(214)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 益州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 涼州刺史部 中平元(184)年～六(189)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 涼州刺史部 初平元(190)年～興平元(194)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 涼州刺史部 興平二(195)年～建安十一(206)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 涼州刺史部 建安十二(207)年～二十(215)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 雍州刺史部 建安二十一(216)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 涼州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 并州刺史部 中平元(184)年～初平元(190)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 并州刺史部 初平二(191)年～建安十一(206)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 并州刺史部 建安十二(207)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 并州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 幽州刺史部 中平元(184)年～四(187)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 幽州刺史部 中平五(188)年～初平元(190)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
 幽州刺史部 中平二(191)年～四(193)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。

幽州刺史部 興平元(194)年～建安四(199)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
幽州刺史部 建安(200)年～十二(207)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
幽州刺史部 建安十三(208)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
幽州刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
交趾刺史部 中平元(184)年～初平元(190)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
交趾刺史部 初平二(191)年～建安五(200)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
交趾刺史部 建安六(201)年～十四(209)年.....エラー! ブックマークが定義されていません。  
交趾刺史部 建安十五(210)年～延康元(220)年 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
交趾刺史部 郡県データ・出身者一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
参考文献一覧 .....エラー! ブックマークが定義されていません。  
あとがき .....エラー! ブックマークが定義されていません。

専門的に歴史や漢文を一切学んだことのない単なる愛好家である筆者がまとめたものであり、誤りや抜け漏れが数多くあるとは思いますが、手に取って頂いた方の三国志の理解の一助になれば幸いです。

司隸校尉部 中平元(184)年～中平五(188)年



郡国名	太守・国相 城内の県令・県長など
河南尹	司隸校尉: 馮方。在任時期不明。中常侍曹節の娘婿。西園八校尉の助軍右校尉？ <sup>一</sup> 娘は袁術の側室となった。 <sup>二</sup> 司隸校尉: 郭鴻。在任時期不明。潁川陽翟の郭氏。 <sup>三</sup> 司隸校尉: 趙安世。在任時期不明。下邳の趙興・趙峻・趙安世は三代に渡って司隸校尉となった。 <sup>四</sup> 司隸校尉: 張温。劉虞と袁紹は蓋勲と共に霊帝の側の者を排除して漢室復興を志し、霊帝も蓋勲を側に置こうとしたが、そのとき司隸校尉の張温は蓋勲を京兆尹に推薦し、蓋勲は就任した。 <sup>五</sup>

<sup>一</sup> 後漢書霊帝紀注『山陽公載記』。三国志集解では馮芳と同一人物と指摘。

<sup>二</sup> 三国志袁術伝注『九州春秋』

<sup>三</sup> 後漢書郭躬伝

<sup>四</sup> 後漢書郭躬伝

<sup>五</sup> 後漢書蓋勲伝。張温は中平四年(187)四月に太尉を免職となっている。蓋勲が袁紹・劉虞と議論

	<p>河南尹:何進。中平元年三月、河南尹の何進は黄巾の乱が起きると大將軍となった。<sup>一</sup></p> <p>河南尹:徐灌。中平元年七月、河南尹の徐灌は投獄されて死亡した。<sup>二</sup></p> <p>河南尹:李燮。安平相から議郎となりさらに河南尹となった。中平二(185)年、<sup>三</sup>靈帝は官職を売って資金を得ていたが李燮がこの問題を論じたので靈帝はこれを止めた。二年在職して亡くなった。<sup>四</sup></p> <p>河南尹:何苗。中平四(187)年三月、河南尹の何苗は前月に中牟県令を殺した滎陽の賊を鎮圧した。これにより何苗は車騎將軍となった。<sup>五</sup></p> <p>河南尹:袁術。孝廉に挙げられ、河南尹・虎賁中郎将を務めた。<sup>六</sup>袁紹が何進に宦官誅殺を進言した際に袁術は虎賁中郎将であり俠気で名を知られていたとある。<sup>七</sup></p> <p>中牟県令:落皓。滎陽の賊が反乱を起こした際、戦陣に臨んで周辺への注意を怠り賊に殺された。<sup>八</sup></p> <p>中平元年(184)、二月、張角は黄天を称して各地で反乱を起こした。八関都尉が函谷・広成・伊関・大谷・轅轅・旋門・小平津・孟津のそれぞれの関や港に置かれた。<sup>九</sup></p> <p>三月、何進を大將軍とし、北中郎将盧植を張角討伐に、左中郎将皇甫嵩・右中郎将朱儁を潁川の黄巾の討伐に送った。南陽で黄巾の張曼成は太守の褚貢を殺害した。</p> <p>六月、南陽太守秦頡が張曼成を討ち取った。皇甫嵩と朱儁は予州の黄巾を破り、皇甫嵩は兗州、朱儁は南陽へ転戦した。盧植は張角を包囲したが誣告されて董卓と交代し、董卓は勝てなかった。</p> <p>十一月、皇甫嵩は張宝を斬り、朱儁は南陽の黄巾を平定した。涼州で北宮伯玉らが背いた。</p> <p>中平五年(188)八月、靈帝は西園八校尉を配置した。</p> <p>十月、靈帝は無上將軍を称して洛陽城内の平樂觀で閱兵した。<sup>一〇</sup></p>
河内郡	<p>太守:丁従。中平二(185)年建立の劉寛碑に門生として河内太守の済陰句陽の丁従文海の名がある。<sup>一一</sup></p> <p>太守:朱儁。黒山賊の張燕が河内を荒らして都に近づいたので朱儁を河内太守に任命した。朱儁は家兵を率いて張燕と戦って退けた。その後光禄大夫となった。<sup>一二</sup></p> <p>太守:劉勲。中平年間に河内太守を務めた。娘が華佗に腫れた足から蛇を出す治療を受けた。<sup>一三</sup></p> <p>太守:李敏。在任時期不明。退任後郷里の遼東に戻ったが公孫度に憎まれて海路逃亡した。<sup>一四</sup></p> <p>中平二年(185)、黒山賊の張牛角らが反乱を起こし各地を荒らした。<sup>一五</sup>張牛角が戦死すると張燕が跡を継ぎ、常山・趙郡・中山・上党・河内の諸賊と連合して黒山と号した。後に張燕は朝廷に使者を送って降伏し平難中郎将となった。<sup>一六</sup></p>
河東郡	<p>太守:董卓。并州刺史、河東太守となり中平元年(184)に東中郎将となり盧植に代って黄巾と戦ったが敗れた。<sup>一七</sup></p> <p>皮氏県長:魏傑。中平二(185)年建立の劉寛碑に門生として皮氏県長の扶風杜陽の魏傑齊卿の名がある。<sup>一八</sup></p> <p>蒲子県長:杜騰。中平二(185)年建立の劉寛碑に門生として蒲子県長の京兆長安の杜騰伯瓊の名がある。<sup>一九</sup></p> <p>中平五年(188)二月、黄巾の残党の郭泰らが白波谷で反乱を起こし河東・太原を荒らした。九月に南匈奴と連合してさらに河東を攻撃した。<sup>二〇</sup></p>
弘農郡	<p>太守:王宏。郭泰に見出された。<sup>二一</sup>弘農太守となると郡中を調べ宦官に連なる者の不正を容赦なく罰したので郡は震え上がった。<sup>二二</sup></p> <p>陝県令:郭碩。中平二(185)年建立の劉寛碑に門生として陝県令の上郡奢陽の郭碩升公の名があ</p>

した際に袁紹が佐軍校尉とあるが西園八校尉が置かれたのが靈帝紀によれば翌五年八月である。またこの年に州牧が設置されて劉虞は現地に赴任した。張温は中平五年八月から劉虞が幽州に赴任するまでは少なくとも司隸校尉であったと言える。

一 後漢書靈帝紀  
二 後漢書靈帝紀  
三 後漢書宦者列伝には黄巾の乱の際に張讓らが黄巾と通じていた疑惑に謝罪して銭を差し出して軍事費とした記事があり、翌

年に宮廷の火事の復旧のために天下から更に銭を集めた。鉅鹿太守の河内の司馬直はこれを断り世の中を批判した文書を残して自殺したので靈帝は売官を中止したとある。李燮が論じたのもこの頃なのだろう。

四 後漢書李固伝  
五 後漢書靈帝紀  
六 後漢書袁術伝  
七 後漢書何進伝  
八 後漢書靈帝紀注 劉艾『靈帝紀』  
九 後漢書靈帝紀

一〇 後漢書靈帝紀  
一一 『隸続』劉寛碑陰  
一二 後漢書朱儁伝  
一三 三国志華佗伝注『華佗別伝』  
一四 三国志公孫度伝  
一五 後漢書靈帝紀  
一六 三国志張燕伝  
一七 後漢書董卓伝  
一八 『隸続』劉寛碑陰  
一九 『隸続』劉寛碑陰  
二〇 後漢書靈帝紀  
二一 後漢書郭泰伝  
二二 後漢書王允伝

	<p>る。<sup>一</sup>  陝県令：劉艾。在任時期不明。献帝が李傕に負けて黄河を渡ろうとした際に楊彪は難所が多く天子が渡るべきではないと進言したが、その際に劉艾も以前に陝県令を務めており危険だと進言した。<sup>二</sup></p>
京兆尹	<p>京兆尹：劉陶。張角を取り締まるべきと上奏したが取り上げられず、翌年黄巾の乱が起こった。侍中として諫言を度々行い権臣に煙たがられて京兆尹となった。しかし清貧を貫き京兆尹に就任するのに必要な金を納入せず、罪に問われたが霊帝に許された。宦官を非難して投獄され自殺した。<sup>三</sup>  京兆尹：司馬防。在任時期不明。洛陽令・京兆尹を歴任し、老齢で騎都尉となった。<sup>四</sup>  京兆尹：樊陵。在任時期不明。蔡邕の文章による碑があり最終的に京兆尹を務めたことが分かる。<sup>五</sup>  京兆尹：蓋勲。張温により京兆尹に推薦された。中常侍の子を摘発し、蹇碩に連なる小黄門高望の子の高進を孝廉に推挙することも拒絶した。董卓が少帝を廃して何太后を殺すと董卓を批判する書簡を送った。中央に召されて議郎となった。<sup>六</sup>  長安県令：楊党。中常侍の子で権勢を振るっており、蓋勲に摘発され、楊党の親族はなんとか救おうとしたがさらに父親も摘発されて詔を受けて徹底的に取り調べられ、都は震え上がった。<sup>七</sup>王国が反乱を起こして陳倉を責めると蓋勲は自分の部曲を五千から一万に増やし、上表して扶風の士孫瑞を鷹鷄校尉、桂陽の魏桀を破敵校尉、京兆の杜楷を威虜校尉、弘農の楊儒を烏擊校尉、長陵の第五雋を清寇校尉として彼らを率いた。<sup>八</sup>  陽陵県令：鍾繇。孝廉に挙げられて尚書郎、陽陵県令を務めたが病気で官を去った。<sup>九</sup></p>
左馮翊	
右扶風	<p>太守：趙瑤。漢中南鄭の人。在任時期不明。緱氏県令から扶風太守となり、さらに蜀郡太守となった際に司空の張温から「昔、第五伯魚は蜀郡太守から司空となった。私は机を掃いて君を待とう」と言われて承諾した。広漢太守となったが在官中に死去した。<sup>一〇</sup>  太守：鮑鴻。中平二(185)年、張温に従って辺章・韓遂と戦い、流星に不吉を感じて撤退した賊軍を董卓と共に追撃して破った。<sup>一一</sup>中平五(188)年八月、屯騎校尉から西園八校尉の下軍校尉となった。<sup>一二</sup>  太守：黄琬。中平年間のはじめに右扶風となり、その後将作大匠に召された。<sup>一三</sup>  平陵県令：聶瑄。中平二(185)年建立の劉寛碑に門生として平陵県令の河内脩武の聶瑄季康の名がある。<sup>一四</sup>  武功県令：李璜。中平二(185)年建立の劉寛碑に門生として武功県令の河内野王の李璜元圭の名がある。<sup>一五</sup>  中平二年(185)三月、北宮伯玉らが三輔を荒らし車騎將軍皇甫嵩は討伐するが勝てず。張温が車騎將軍となり十一月に美陽で北宮伯玉を破った。涼州まで董卓・周慎は追撃したが勝てなかった。<sup>一六</sup>  董卓は撤退時に自兵を損なわずに涼州から撤退して扶風に駐屯した。<sup>一七</sup>  中平四年(187)四月、涼州刺史の耿鄙が韓遂に敗れ、韓遂は漢陽太守傅燮を殺害し馬騰・王国と共に三輔を荒らした。  中平五年(188)十一月、王国が陳倉を包囲し、皇甫嵩が救援した。  中平六年(189)二月、皇甫嵩は王国を大いに破った。</p>

<sup>一</sup> 『隸統』劉寛碑陰

<sup>二</sup> 後漢書董卓伝注 袁宏『後漢紀』

<sup>三</sup> 後漢書劉陶伝

<sup>四</sup> 三国志司馬朗伝注 司馬彪『統漢書』序伝

<sup>五</sup> 統漢書郡国志一、蔡中郎集 樊陵は張讓らに司隸校尉とされたが、袁紹に殺害されたので正式の官職として京兆尹が最後だ

ったのでは。従って碑では京兆尹とされたのだろう。

<sup>六</sup> 後漢書蓋勲伝

<sup>七</sup> 後漢書蓋勲伝

<sup>八</sup> 後漢書蓋勲伝注『統漢書』

<sup>九</sup> 三国志鍾繇伝

<sup>一〇</sup> 華陽国志 第十下 漢中士女 張温は中平元年(184)四月に司空となり翌二年八月に車騎將軍となっているのでこの間に趙瑤

は蜀郡太守であったのであろう。

<sup>一一</sup> 後漢書董卓伝

<sup>一二</sup> 後漢書何進伝、霊帝紀

<sup>一三</sup> 後漢書黄琬伝

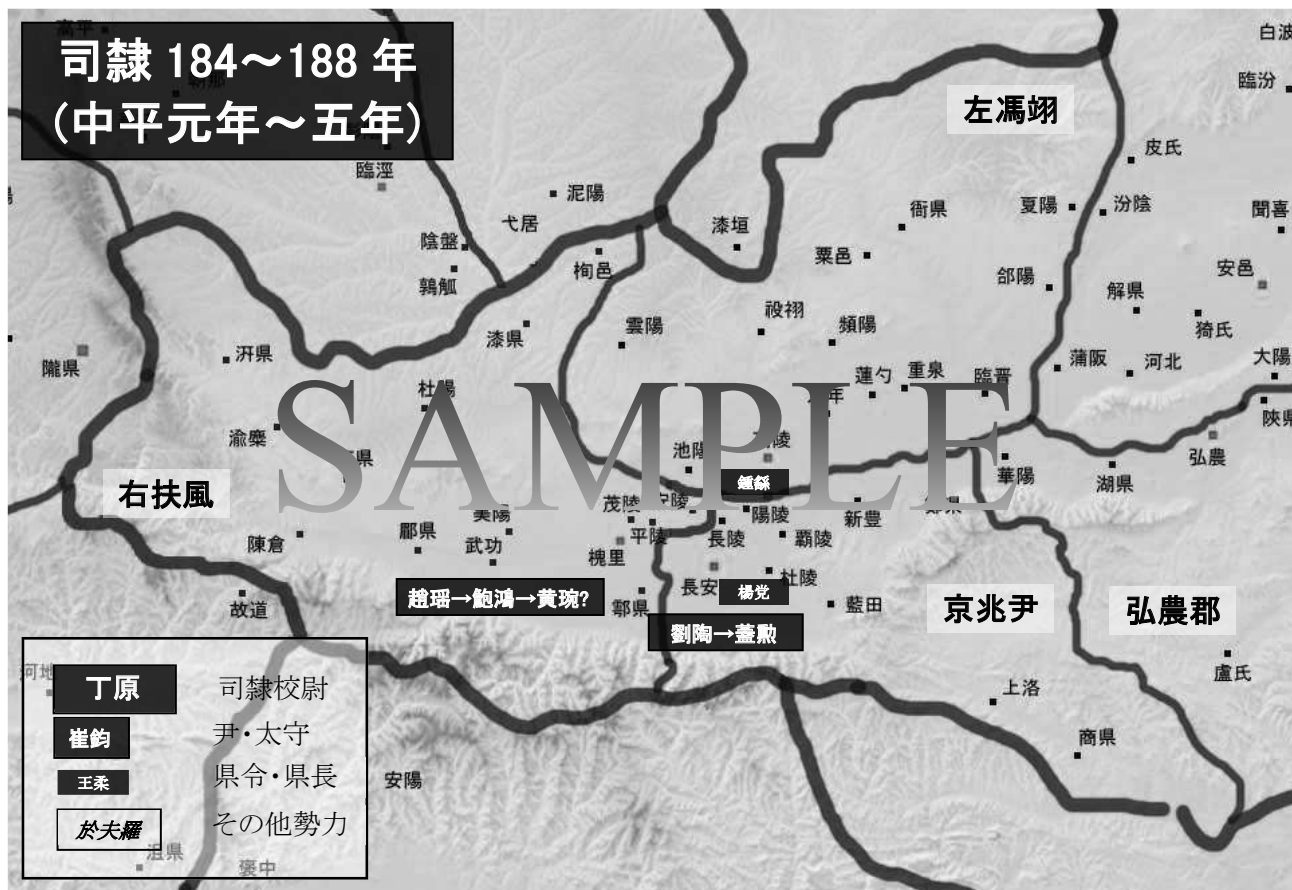
<sup>一四</sup> 『隸統』劉寛碑陰

<sup>一五</sup> 『隸統』劉寛碑陰

<sup>一六</sup> 後漢書霊帝紀

<sup>一七</sup> 後漢書董卓伝





### 司隸関連年表(主に後漢書靈帝紀より)

中平元年(184)二月 張角が黄天と称して三十六の部帥と共に全国で同時に反乱を起こした。

三月 何進を大將軍とし、八閩に都尉を置いて守備を固めた。党錮の禁を解いて人々を釈放した。北中郎將の盧植に張角を、左中郎將の皇甫嵩と右中郎將の朱儁に潁川の黄巾を討伐に向かわせた。

十一月 皇甫嵩が張角の弟の張宝を斬り、張角は病死した。南陽の黄巾を朱儁が破り黄巾は平定された。

中平二年(185)二月 黒山で張牛角らが反乱を起こした。

三月 涼州で反乱を起こしていた北宮伯玉らが三輔を荒らした。皇甫嵩が討伐に向かったが勝てなかった。

八月 張温が車騎將軍として皇甫嵩に代って北宮伯玉の討伐に向かった。

十一月 美陽にて張温は北宮伯玉を破った。邊寇將軍周慎に追撃を命じて楡中を、中郎將董卓に命じて先零羌を討たせたが両方とも勝てなかった。

中平四年(187)二月 滎陽の賊が中牟県令を殺した。

三月 河南尹の何苗が滎陽の賊を破った。これにより何苗は車騎將軍となった。

四月 韓遂が涼州刺史耿鄙を破り、漢陽太守傅燮を殺害した。韓遂は馬騰・王国と連合して三輔を荒らした。

中平五年(188)正月 黄巾残党の郭泰らが白波谷に拠って反乱を起こし太原・河東を荒らした。

八月 靈帝は西園八校尉を設置して蹇碩その筆頭の上軍校尉とした。

九月 南匈奴単于が白波賊と共同で河東を荒らした。

十月 靈帝は無上將軍を称して洛陽の平樂觀で閱兵式を行った。

十一月 王国が陳倉を包囲し、右將軍の皇甫嵩がこれを救援した。

司隸校尉部 中平六(189)年～初平二(191)年



郡国名	太守・国相 城内の県令・県長など
河南尹	司隸校尉: 袁紹。中平六(189)年八月、何進は董卓・橋瑁・丁原を都に呼び寄せて宦官を誅殺すると何太后を脅したが従わなかった。何進は袁紹を司隸校尉として節を仮し、王允を河南尹に任命して董卓をさらに都近くに呼び寄せた。何太后は張譲と血縁であり何進は宮中に呼ばれて宦官に殺害された。董卓が少帝を廃嫡する議論を行うと袁紹は反対して節を門に掛けて冀州に出奔した。董卓は袁紹の首に賞金を懸けたが、後に懷柔して袁紹を勃海太守とした。袁紹は引き続き司隸校尉を兼ねると称し、初平元(190)年に反董卓の蜂起を行うと車騎將軍・司隸校尉を名乗った。 <sup>一</sup> 司隸校尉: 樊陵。張譲・段珪は何進に対抗するために詔を偽造して樊陵を司隸校尉、許相を河南尹とした。宦官が虐殺された際、詔だと偽って呼び出され袁紹により斬られた。 <sup>三</sup>

<sup>一</sup> 後漢書何進伝

<sup>二</sup> 後漢書袁紹伝

<sup>三</sup> 後漢書何進伝

	<p>司隸校尉:宣播。初平元(190)年、董卓が長安への遷都を議論した際、反対した黄琬・楊彪を董卓の指示で災害発生を理由に免職とした。<sup>一</sup></p> <p>河南尹:袁術。孝廉に挙げられ、河南尹・虎賁中郎将を務めた。<sup>二</sup>袁紹が何進に宦官誅殺を進言した際に袁術は虎賁中郎将であり俠気で名を知られていたとある。<sup>三</sup></p> <p>河南尹:王允。中平六(189)年八月、袁紹を司隸校尉、王允を河南尹とした。<sup>四</sup>九月、献帝が即位すると太僕となった。<sup>五</sup></p> <p>河南尹:許相。張讓・段珪は何進に対抗するために詔を偽造して樊陵を司隸校尉、許相を河南尹とした。宦官が虐殺された際、詔だと偽って呼び出され袁紹により斬られた。</p> <p>河南尹:伍孚。汝南呉房の人。大將軍の何進に招聘されて東曹の属官となり、侍中、河南尹、越騎校尉と出世した。董卓を刺し殺そうと近づいたが失敗して董卓を罵りながら殺された。<sup>六</sup></p> <p>河南尹:朱儁。光禄大夫から屯騎校尉、城門校尉、河南尹をつとめた。董卓は連合軍を恐れて長安への遷都を議論したが朱儁が反対したので味方に引き入れようと太僕に任命した。しかし朱儁はその官を受けなかった。<sup>七</sup></p> <p>中牟県令、行河南尹事:楊原。董卓をめぐる動乱が起き中牟県令の楊原は逃げ出そうとしたが任峻の進言に従い河南尹の代行と称して挙兵した。曹操が中牟に着くと任峻は曹操に従った。<sup>八</sup></p> <p>河陰県令:杜陽。韓浩の舅。韓浩が王匡に従って董卓を攻めると、董卓は杜陽を捕らえて韓浩を味方に引き入れようとしたが韓浩は董卓になびかず、袁術は韓浩を評価して騎都尉とした。<sup>九</sup></p> <p>平津都尉:賈詡。董卓が洛陽に入ると太尉掾のまま平津都尉を務め、討虜校尉に転じた。<sup>一〇</sup></p> <p>光熹元年(189)四月、霊帝が崩御し、光熹と改元し、少帝劉辯が即位した。蹇碩が処刑された。</p> <p>昭寧元年(189)八月、張讓らは何進を殺害、袁紹らは宦官を虐殺。董卓が陳留王劉協を保護して宮廷に戻した。昭寧と改元した。</p> <p>永漢元年(189)九月、董卓は少帝を廃して劉協(献帝)を即位させた。永漢と改元した。</p> <p>中平六年(189)十二月、昭寧の元号を廃止して中平六年に戻した。</p> <p>初平元年(190)正月、董卓の打倒を目指して諸侯が蜂起した。</p> <p>二月、董卓は献帝を長安に向かわせ、翌月献帝は長安に入った。董卓は袁隗の一族を処刑した。</p> <p>初平二年(191)二月、孫堅は董卓の部将の胡軫を陽人で破る。董卓は歴代皇帝陵から略奪した。<sup>一一</sup></p> <p>董卓は李傕を孫堅に使者として送り和睦しようとしたが拒絶され、大谷で董卓は孫堅と戦い敗れて渾池まで退いた。さらに孫堅は洛陽の宣陽門で呂布を破り、皇帝陵を修復して函谷関を越えた。<sup>一二</sup></p>
河内郡	<p>太守:王匡。中平六(189)年、河内太守の王匡は出身地の泰山の兵を率いて河陽津に駐屯し董卓を攻撃しようとしたが、董卓は王匡と対峙しながら別動隊を背後に回して攻撃し、王匡軍は壊滅した。<sup>一三</sup></p> <p>董卓は執金吾の胡母班と将作大匠の呉脩を袁紹に送り和睦しようとしたが、袁紹は王匡に命じて彼らを殺害させた。<sup>一四</sup>袁紹は王匡と共に河内に駐屯した。<sup>一五</sup>後に王匡は曹操と胡母班の一族に殺害された。<sup>一六</sup></p> <p>太守:張楊。南匈奴单于の於夫羅は張楊を捕らえたまま黎陽にいた度遼將軍の耿祉を破ってその軍を吸収して勢力を盛り返した。董卓は張楊を建義將軍・河内太守に任命した。<sup>一七</sup></p> <p>董卓が孫堅に敗れて洛陽から撤退すると中郎将の牛輔を安邑に配置した。<sup>一八</sup></p> <p>初平二(191)年七月、黒山賊の于毒・白繞・眭固らが魏郡に侵入し、東郡太守の王肱を破った。曹操が白繞を撃退したので袁紹は曹操を東郡太守に推挙した。<sup>一九</sup></p>
河東郡	<p>太守:王邑?:就任時期不明<sup>二〇</sup></p> <p>昭寧元年(189)十月、白波賊が河東に攻め込んだため、董卓は牛輔にこれを討たせた。</p>
弘農郡	太守:王宏。郭泰に見出された。弘農太守となると郡中を調べ宦官に連なる者の不正も容赦なく罰し

一 後漢書楊彪伝

二 後漢書袁術伝

三 後漢書何進伝

四 後漢書何進伝

五 後漢書王允伝

六 三国志董卓伝注 謝承『後漢書』、後漢書董卓伝。三国志集解によれば伍瓊とは別人であるという。

七 後漢書朱儁伝

八 三国志任峻伝

九 三国志夏侯惇伝。三国志集解によれば後漢の平陰県が曹丕によって河陰県に改名された。

一〇 三国志賈詡伝

一一 後漢書献帝紀

一二 後漢書董卓伝

一三 三国志董卓伝

一四 三国志袁紹伝

一五 後漢書袁紹伝

一六 三国志武帝紀注 謝承『後漢書』

一七 三国志張楊伝

一八 後漢書董卓伝

一九 三国志武帝紀

二〇 石井仁「黒山・白波考」一後漢末の村塢と公権力一では王邑が董卓政権の高級幹部であり、長安に撤退して安邑に牛輔を配置したころに王邑も太守に任命したのではと推測している。

	<p>て郡は震え上がった。</p> <p>董卓は孫堅に敗れて澠池まで退くと、孫堅は函谷関を越えて新安・澠池の間まで進軍して董卓の糧道を断った。董卓は東中郎将の董卓を澠池に、中郎将の段熲を華陰に、中郎将の牛輔を安邑に配置し、その他の部下も各地に配置して長安に撤退した。<sup>一</sup></p> <p>陝県に駐屯していた牛輔は李傕・郭汜に命じて河南尹の朱儁を破らせ、陳留・潁川に攻め込んで住民を殺戮した。<sup>二</sup></p>
京兆尹	<p>司隸校尉：黄琬。長安への遷都が行われると司隸校尉となり王允と共に董卓誅殺を計画した。<sup>三</sup></p> <p>司隸校尉：趙謙。董卓の寵愛を受けて横暴を働いていた胡人を捕らえて処刑した。董卓は激怒して部下の司隸都官を鞭で打ち殺した。<sup>四</sup></p> <p>司隸校尉：劉翬。董卓の命で親不孝、不忠、清廉でない官吏を列举させて処刑し財産を没収した。人々は愛憎により裁判を起し冤罪が続出した。<sup>五</sup></p> <p>京兆尹：蓋勲。張温により京兆尹に推薦された。中常侍の子を摘発し、蹇碩に連なる小黄門高望の子の高進を孝廉に推挙することも拒絶した。董卓が少帝を廃して何太后を殺すと董卓を批判する書簡を送った。中央に召されて議郎となった。<sup>六</sup></p> <p>京兆尹：常洽。蜀郡江原の人。在任時期不明。荊州刺史より京兆尹・侍中・長水校尉を歴任し、献帝の洛陽行きに同行して李傕と戦い戦死した。<sup>七</sup>李傕と郭汜が争い司徒の趙温が李傕を諫めて激怒された際に侍中として記載がある。<sup>八</sup></p> <p>京兆尹：楊彪。董卓が長安に移った後、病気で太常を辞めたが後に京兆尹、光禄勳、光禄大夫を務めた。初平三(192)年九月に司空となった。<sup>九</sup></p> <p>京兆尹：司馬防。在任時期不明。洛陽令・京兆尹を歴任し、老齢で騎都尉となった。<sup>一〇</sup></p> <p>長安県令：楊党。中常侍の子で権勢を振るっており、蓋勲に摘発され、楊党の親族はなんとか救おうとしたがさらに父親も摘発されて詔を受けて徹底的に取り調べられ、都は震え上がった。<sup>一一</sup></p> <p>虎牙都尉：劉勲。在任時期不明。袁紹と共に挙兵し張楊を降伏させる功績があったが、後に使者の役割を果たせず袁紹に処刑された。<sup>一二</sup></p> <p>中平元年(190)三月、献帝は長安に入った。中平二年(191)四月、董卓は長安に入った。</p>
左馮翊	
右扶風	<p>左將軍の皇甫嵩は三万の兵を率いて扶風に駐屯しており、蓋勲は密かに皇甫嵩と結んで董卓を討とうとしたが、皇甫嵩は中央に招聘された。<sup>一三</sup></p> <p>中平六年(189)十二月、扶風都尉を廃止して漢安都護を置いた。<sup>一四</sup></p> <p>董卓は郡に高さ厚さ七丈の万歳塙を築いて三十年分の蓄えを用意し「事が成れば天下に雄拠し、成らねば老いるまでここを守る」と言った。<sup>一五</sup></p>
漢安郡	<p>中平六年、雍県・滄壁・杜陽・陳倉・汧県の五県を割いて漢安郡を置いた。<sup>一六</sup></p>

一 後漢書董卓伝

二 後漢書董卓伝

三 後漢書黄琬伝

四 三国志董卓伝注『献帝紀』

五 三国志董卓伝注『魏書』

六 後漢書蓋勲伝

七 華陽国志 蜀郡士女

八 三国志董卓伝注『献帝起居注』

九 後漢書楊彪伝、献帝紀

一〇 三国志司馬朗伝注 司馬彪『続漢書』序伝

一一 後漢書蓋勲伝

一二 三国志臧洪伝、公孫瓚伝注『典略』。いずれも袁紹を非難する書簡であることに注意。袁術・曹操に仕えた琅邪の劉勲とは別人である。

一三 後漢書蓋勲伝

一四 後漢書献帝紀。石井仁は「漢

末州牧考」にて漢安都護に関する記載はここだけで人事・職掌・組織に関しては不明だが扶風都尉を省いて設置されたことから右扶風都尉と京兆虎牙都尉を統合整理した機構であったと推測している。

一五 後漢書董卓伝

一六 続漢書 志第十九郡國一注『献帝起居注』



### 司隸関連年表(主に後漢書献帝紀より)

中平六年(189)二月 皇甫嵩は陳倉で王国を破った。

光熹元年(189)四月 霊帝が崩御し、少帝が即位した。蹇碩が処刑される。光熹と改元した。

昭寧元年(189)八月 中常侍の張譲らが何進を殺害した。袁紹らは宦官を皆殺しにかけ、張譲は少帝を連れて逃亡を図るが盧植に捕捉されて黄河に身を投げた。少帝は宮廷に戻り昭寧と改元した。

永漢元年(189)九月 董卓は少帝を廃して献帝を即位させた。永漢と改元した。董卓は太尉となり実権を握った。

十月 白波賊が河東を攻撃した。董卓は牛輔を派遣してこれを討った。

中平六年(189)十二月 扶風都尉を省いて漢安都護を置いた。元号を中平六年に戻した。

初平元年(190)正月 諸侯が董卓を討つために挙兵。董卓は弘農王を殺害した。白波賊が(河)東郡を攻撃した。

二月 長安への遷都を決定した。董卓は洛陽の人民を西の長安へ移動させた。

三月 献帝が長安に入った。董卓は洛陽を焼き、袁隗とその一族を皆殺しにした。

六月 董卓は韓融・陰脩・胡母班らを送って諸侯を慰撫しようとしたが袁術・王匡らにより殺害された。

初平二年(191)二月 董卓は太師となった。孫堅は董卓の部下の胡軫を破った。董卓は洛陽の歴代皇帝墓から略奪した。

四月 董卓は長安に入った。

一 後漢書霊帝紀には「白波賊寇東郡」とあるが白波谷から兗州は

遠いので「河」の字が脱落しているのではないだろうか。

司隸校尉部 初平三(192)年～建安元(196)年



郡国名	太守・国相 城内の県令・県長など
河南尹	<p>司隸校尉: 韓暹。献帝が洛陽に戻ると楊奉を車騎將軍、韓暹を司隸校尉とした。後に曹操に敗れて袁術を頼った。<sup>一</sup></p> <p>司隸校尉: 曹操。司隸校尉と鎮東將軍を兼任した曹操は都を許に遷した。<sup>二</sup></p> <p>司隸校尉: 丁冲。曹操は献帝を許に迎えると丁冲を司隸校尉とした。<sup>三</sup></p> <p>河南尹: 楊懿。董卓は弘農の楊懿を河南尹に任命して洛陽を守らせた。楊懿は荊州から戻ってきた朱儁の攻撃を受けて逃走した。<sup>四</sup></p> <p>河南尹: 朱儁。荊州に逃げていた朱儁は楊懿が河南尹になったと聞くと兵を進めて楊懿を破った。洛</p>

一 後漢書董卓伝  
二 三国志武帝紀注『献帝紀』

三 三国志曹植伝注『魏略』  
四 後漢書朱儁伝



	<p>陽は破壊されて物資が無いため中牟に駐屯して董卓と共に討つべきと州郡に呼びかけ、徐州刺史の陶謙は三千の精兵を送り朱儁に車騎將軍を兼任させるよう上奏した。董卓は李傕・郭汜に命じて朱儁を破り、朱儁は函谷関より先に進まなかった。董卓が殺されると陶謙は再び朱儁を他の徐州の太守らと共に推挙したが、朱儁は賈詡・周忠の策に従って李傕になびいて太僕となった。<sup>一</sup></p> <p>河南尹：駱業。河南尹の駱業は献帝の母の王美人の兄の王斌と共に王美人の陵を修復した。<sup>二</sup></p> <p>建安元(196)年七月、献帝は洛陽に到着し、天帝を祀り大赦を行った。</p> <p>八月、張楊を大司馬に、韓暹を大將軍に、楊奉を車騎將軍とした。洛陽に食料物資は無く官吏は餓死し、あるいは兵士に殺された。曹操の勧めで許に遷都を行った。<sup>三</sup></p> <p>新鄭県長：楊沛。初平に辞令を受けて新鄭県長となった。興平末年に人民が飢餓で苦しむと住民に桑の実を貯蔵させ豆を収穫させた。曹操が洛陽へ献帝を迎えに向かった際、食料が切れて新鄭を通った際に楊沛は桑の実を献上したので曹操は非常に喜んだ。曹操は献帝を許に迎えると楊沛を長社県令とした。<sup>四</sup></p>
河内郡	<p>太守：張楊。董卓により建義將軍・河内太守に任命された。<sup>五</sup>興平二年(195)十二月、献帝が安邑に駐屯した際に河内太守の張楊は数千人を率いて米を貢納し、安国將軍に任命された。董承が韓暹と戦って敗れると張楊を頼った。張楊は洛陽を修繕し献帝は洛陽に入った。張楊はこの功績で献帝の宮殿が「楊安殿」と命名された。張楊は野王に戻り大司馬に任命された。<sup>六</sup></p> <p>初平三(192)年一月、黒山賊の于毒が東武陽を攻撃すると曹操は于毒の本拠である黒山を攻撃したので于毒は引き返した。曹操は眭固を撃破し、内黄で於夫羅を撃破した。<sup>七</sup></p> <p>初平四(193)年三月、魏郡が黒山賊に呼応して袁紹を裏切り太守の栗成を殺害した。黒山賊の陶升は袁紹に味方して鄴の袁紹らの家族を脱出させ斥丘で袁紹と合流した。袁紹は朝歌の鹿場山を包囲して于毒と長安から送り込まれた冀州刺史の臺寿を斬った。そこから北上し黒山の諸賊を破りその砦を破壊した。<sup>八</sup>袁紹は魏郡太守栗攀が殺されると鄴を董昭に任せて黒山の本拠を攻め、于毒や董卓が任命した冀州刺史の臺寿を斬った。その後北上して他の黒山賊を攻撃して左髭丈八を斬り、劉石、青牛角、黄龍、左校、郭大賢、李大目、于氏根らを追い払ってその砦を破壊した。<sup>九</sup></p>
河東郡	<p>太守：王邑。興平二年(195)十二月、献帝が安邑に駐屯した際に河東太守の王邑は綿帛を貢納し、それらは高卿たちに分け与えられた。王邑はこの功績で列侯となった。<sup>一〇</sup></p> <p>白波賊の李樂・韓暹・胡才・南匈奴右賢王の去卑は董承・楊奉に呼ばれて献帝の洛陽行きを助け李傕を破った。<sup>一一</sup></p> <p>興平三年(196)正月、献帝は安邑で天帝を祀り大赦を行って建安に改元した。</p> <p>二月、韓暹が董承を攻撃した。<sup>一二</sup></p> <p>程銀・侯選・李堪は興平の乱の際にはそれぞれ千家余りをまとめて割拠していた。<sup>一三</sup></p>
弘農郡	<p>董卓が殺されると呂布は李肅に命じて陝県に駐屯していた牛輔を攻撃させたが李肅は敗れ、呂布に処刑された。その後牛輔の陣営で反乱が起き牛輔は部下に殺害された。李傕らは賈詡の勧めで長安に向けて進軍し、王允が派遣した胡軫・徐栄と新豊で戦い胡軫を降伏させ徐栄を討ち取った。<sup>一四</sup></p> <p>初平三年九月、張済は長安を出て弘農に駐屯した。</p> <p>張済は陝県から出てきて李傕と郭汜を和解させた。</p> <p>段熲は献帝が華陰まで来ると物資を献上したが楊定と元々仲が悪く戦闘となった。段熲は戦闘中も変わらず物資の供出を続けた。李傕・郭汜は献帝を取り返すために段熲を救援し、楊定は敗れて荊州に出奔した。<sup>一五</sup></p> <p>興平二年(195)十一月、東憫で献帝軍は李傕・郭汜に敗れ士孫瑞・宣播・沮儁らは戦死した。一行は曹陽まで落ち延びて露営した。楊奉と董承は白波賊の韓暹らと匈奴左賢王の去卑を味方にして李傕を打ち破った。十二月、献帝軍は李傕と戦って敗れ、陝県で黄河を渡り安邑に着いた。<sup>一六</sup></p>
京兆尹	<p>司隸校尉：黄琬。初平二年(192)五月、政権を握った李傕は司隸校尉の黄琬と司徒の王允を捕らえてその一族と共に処刑した。<sup>一七</sup></p> <p>司隸校尉：胡种。王允が李傕に捕らえられると同族の弘農太守王宏も投獄された。王宏と不仲だった胡种は王宏を追い詰めて殺したが数日後王宏が胡種の夢に現れて数日後に胡种も死去した。<sup>一八</sup></p>

一 後漢書朱儁伝

二 後漢書何皇后紀

三 後漢書献帝紀

四 三国志賈逵伝注『魏略』

五 三国志張楊伝

六 後漢書董卓伝

七 三国志武帝紀

八 後漢書袁紹伝

九 三国志袁紹伝注『英雄紀』

一〇 後漢書董卓伝、献帝紀

一一 後漢書董卓伝

一二 後漢書献帝紀

一三 三国志張魯伝『魏略』

一四 後漢書董卓伝

一五 後漢書董卓伝

一六 後漢書献帝紀

一七 後漢書献帝紀

一八 後漢書王允伝

	<p>司隸校尉：胡軫。馮翊郡の功曹の游殷と不仲であり陥れて死刑にした。すると一月後に病氣となり「游功曹が鬼を連れてきた」と言って病死した。<sup>一</sup></p> <p>司隸校尉：李傕。李傕は政權を握ると車騎將軍・司隸校尉となった。<sup>二</sup></p> <p>司隸校尉：宋瑒。獻帝軍が李傕に敗れた際に李傕は嫌っていた司徒の趙溫、太常の王偉、衛尉の周忠、司隸校尉の宋瑒を殺そうと思ったが賈詡に諫められて思いとどまった。<sup>三</sup></p> <p>京兆尹：張時。杜畿が建安になって帰郷すると京兆尹の張時は杜畿を功曹に任命した。<sup>四</sup></p> <p>初平三年(192)四月、董卓を誅殺し、司徒の王允は録尚書事として王朝を掌握した。</p> <p>五月、董卓の元部將の李傕・郭汜・樊稠・張濟が長安を包圍し、翌月落城させた。李傕らは將軍となり王允・黃琬は処刑された。</p> <p>李傕らは董卓の元部下の樊稠・李蒙らと合流して長安を包圍し、呂布は敗れて出奔し、王允らは捕らえられた。<sup>五</sup></p> <p>八月、太尉の馬日磾、太僕の趙岐を各地に向けて出發させて天下を慰撫させた。</p> <p>九月、李傕は車騎將軍、郭汜は後將軍、樊稠は右將軍、張濟は鎮東將軍となった。</p> <p>興平元年(194)三月、韓遂・馬騰は郭汜・樊稠と長安郊外の長平觀で戦ったが敗れ、左中郎將の劉範、前益州刺史の种劭は戦死した。</p> <p>侍中の馬宇らは敗れると槐里まで逃げたが樊稠の攻撃を受けて戦死した。<sup>六</sup></p> <p>七月、日照りで飢饉が発生し。獻帝は炊き出しをさせたが死者が減らず、不正があると見抜いて自ら粥を作って実証し侍御史の侯汶を処罰した。</p> <p>興平二年(195)二月、李傕は樊稠を殺害し、郭汜と戦った。<sup>七</sup></p> <p>楊奉と宋果は李傕暗殺を計画したが発覚し、反乱を起こしたため李傕の軍勢は衰えた。<sup>八</sup></p> <p>四月、獻帝は伏氏を皇后に立てた。</p> <p>七月、獻帝は長安を脱出して洛陽に向かった。楊定を後將軍、楊奉を興義將軍、董承を安衆將軍とし、共に東に向かった。</p> <p>十月、新豊で楊定・楊奉は郭汜を破った。<sup>九</sup>郭汜は獻帝を鄆に連れて行こうとして楊奉と戦ったが敗れて終南山に逃走した。李傕と郭汜は協力して獻帝軍と曹陽で戦いこれを破った。<sup>一〇</sup></p>
左馮翊	<p>太守：宋翼。王允が政權を執ると同郡の宋翼を左馮翊とした。李傕は王允を除くためにまずは王宏と宋翼を呼び寄せて殺害し、その後王允とその一族を殺した。<sup>一一</sup></p> <p>太守：賈詡。李傕は賈詡を左馮翊に任命して侯に封じようとしたが賈詡は断り、尚書となった。<sup>一二</sup></p> <p>興平元年(194)八月、馮翊の羌族が属県を襲い、郭汜と樊稠がこれを破った。<sup>一三</sup></p> <p>太守：韓斌。獻帝は洛陽に到着すると馮翊太守の韓斌らは列侯に封じられた。<sup>一四</sup></p>
右扶風	<p>興平元年(194)十二月、安定郡・右扶風を分けて新平郡を設置した。<sup>一五</sup></p> <p>太守：王宏。王允が政權を執ると王宏を右扶風とした。李傕は王允を除くためにまずは王宏と宋翼を呼び寄せて殺害し、その後王允とその一族を殺した。<sup>一六</sup></p> <p>平陵県令：趙戩。王允の故吏であった趙戩は王允が処刑して晒されると官を棄てて王允の葬儀を営んだ。<sup>一七</sup></p>
漢安郡	<p>馬騰・韓遂が敗れると樊稠は陳倉まで追撃した。樊稠と韓遂は単騎で会談を行ったがこれを疑った李傕は樊稠が増援を求めて李傕と会った際に宴席で殺害した。<sup>一八</sup></p>
新平郡	<p>興平元年(194)十二月、安定郡・右扶風を分けて新平郡を設置した。</p>

一 三国志張既伝注『三輔決録注』。董卓の部下の胡軫と「三国志集解」では同一人物としており、董卓の長安遷都後の司隸校尉か。胡种と死因が似ており同一人物の別名かもしれない。

二 後漢書董卓伝

三 三国志賈詡伝注『獻帝紀』。後漢紀では「管邵」に作る。

四 三国志杜畿伝注『魏略』

五 後漢書董卓伝

六 三国志董卓伝

七 後漢書獻帝紀

八 三国志董卓伝

九 後漢書獻帝紀

一〇 三国志董卓伝

一一 後漢書王允伝

一二 後漢書董卓伝

一三 後漢書獻帝紀

一四 後漢書董卓伝注 袁宏『後

漢紀』

一五 後漢書獻帝紀。後漢書地理志の涼州によれば安定郡の鶉觚県と右扶風の漆県をあわせて新平郡とした。

一六 後漢書王允伝

一七 後漢書王允伝

一八 三国志董卓伝注『九州春秋』





## 司隸関連年表(主に後漢書献帝紀、三国志武帝紀より)

初平三(192)年四月 董卓を誅殺し司徒の王允が朝政を握った。

五月 董卓の元部下の李傕・郭汜・樊稠・張済らが反乱を起こした。

六月 李傕らが長安を落とし种弘・崔烈らは戦死、司隸校尉の黄琬、司徒の王允は処刑された。

八月 太尉の馬日磾、太僕の趙岐を使者として各地に送り天下を慰撫させた。

九月 李傕は車騎将軍、郭汜は後将軍、樊稠は右将軍、張済は鎮東将軍となり実権を握った。張済は弘農に駐屯した。

初平四(193)年六月 朱儁を太尉とした。

興平元(194)年正月 献帝は成人した。興平と改元した。

三月 韓遂・馬騰が郭汜・樊稠と長安郊外の長平観で戦い敗れた。左中郎将の劉範、前の益州刺史の种劭らは戦死した。

八月 馮翊の羌族が反乱を起こした。郭汜・樊稠がこれを破った。

十二月 安定・扶風を分けて新平郡を置いた。

この年、馬日磾は寿春で病死した。

興平二(195)年二月 李傕は樊稠を殺害し、郭汜と対立してお互い戦った。

四月 伏氏を皇后とした。李傕・郭汜の戦闘で矢が献帝の前におよび、李傕は献帝を北塢に移した。

六月 陝県から張済が出て来て李傕と郭汜を和解させた。

七月 献帝は長安を出て洛陽に向かった。郭汜は車騎將軍、楊定は後將軍、楊奉は興義將軍、董承は安集將軍として献帝に従った。張済は驍騎將軍として陝に戻って駐屯した。

八月 新豊に献帝は着いた。

十月 郭汜が献帝を脅迫し、楊定と楊奉は郭汜と戦ってこれを破った。献帝は華陰で野営した。張済は再び李傕・郭汜に味方した。

十一月 李傕・郭汜は東憫で献帝軍を破り、士孫瑞・宣播・沮鵠らが戦死した。献帝は曹陽に野営し、楊奉と董承の進言で白波賊の李樂・胡才・韓暹、および南匈奴の去卑を招いて味方にして李傕を破った。

十二月 献帝軍は李傕と戦って敗れ、官女が略奪された。陝に向かい黄河を渡って安邑に着いた。

**建安元(196)年正月** 大赦を行い建安と改元した。

六月 献帝は聞喜に着いた。

七月 献帝は洛陽に着き、宦官の趙忠の元館に住んだ。

八月 献帝は張楊の援助で築いた楊安殿に移住した。張楊を大司馬、韓暹を大將軍、楊奉を車騎將軍とした。鎮東將軍の曹操は司隸校尉となり、録尚書事となった。都を許に遷した。

十月 曹操は楊奉を攻撃し、楊奉は袁術を頼って逃亡した。

十一月 曹操は司空・車騎將軍となった。

この年、張済は南陽に攻め込み穰を包囲したが戦死し、張繡がその軍勢を継いだ。

司隸校尉部 建安二(197)年～建安十一(206)年



郡国名	太守・国相 城内の県令・県長など
河南尹	河南尹:董昭。建安三年(198)に河南尹となった。張楊が部下の楊醜に殺されるとその残党の河内太守の繆尚を説得して曹操に帰順させた。その後冀州牧に転任した。 <sup>一</sup> 河南尹:夏侯惇。済陰太守・建武將軍から河南尹に転じた。曹操の河北平定では後詰めとなり鄴が落ちると河南尹と伏波將軍を兼ねた。 <sup>二</sup>
河内郡	太守:張楊。献帝を助けて大司馬となった。呂布が曹操に包囲されると助けようとしたが実現できず河内の野王からその勢いだけを見せた。後に部下の楊醜に殺害された。楊醜はさらに眭固に殺害され、眭固は曹仁・史渙の討伐を受けて敗死した。 <sup>三</sup> 太守:繆尚。張楊が死ぬと河内太守として張楊の長史の薛洪と袁紹の救援を待ったが董昭に説得さ

<sup>一</sup> 三国志董昭伝

<sup>二</sup> 三国志夏侯惇伝

<sup>三</sup> 三国志張楊伝

	<p>れて曹操に帰順した。<sup>一</sup> 眭固が袁紹に救援を求めに行く間、繆尚は河内で援軍を待ったが眭固が曹仁・史渙に敗れたので繆尚と薛洪は曹操に帰順した。<sup>二</sup></p> <p>太守: 魏种。魏种は以前に曹操に叛いて逃亡していたが繆尚が曹操に帰順した際に捕らえられ河内太守に任命された。<sup>三</sup></p>
河東郡	<p>太守: 王邑。郭援が河東に攻め込んだ際に太守を務めていた。<sup>四</sup> 高幹が反乱を起こすと王邑は中央に召喚されたが、河東の衛固と范先は王邑の留任を請願しつつ裏では高幹と手を握っていた。王邑は司隸校尉の鍾繇に太守の割符を渡せと言われたが王邑は許に直接赴いて太守の印綬を返還した。<sup>五</sup></p> <p>太守: 杜畿。高幹が反乱を起こすと曹操は荀彧の進言で杜畿を河東太守に任命した。杜畿は就任すると衛固と范先を重用すると見せかけ、民衆の反発を防ぐためにゆっくりと兵を集めさせた。張白騎が東垣を、高幹が濩澤を攻撃し、弘農では太守が捕らえられた。衛固らは兵が集まっていなかった。杜畿は張僻を守り衛固の攻撃を退け、高幹が敗れると衛固らも処刑された。その後戦乱で荒れた河東をいち早く復興させた。<sup>六</sup></p> <p>太守: 郭援。袁尚により河東太守に任命されて平陽で反乱を起こした南匈奴に援軍として送り込まれた。<sup>七</sup></p> <p>行絳邑県令: 賈逵。郭援の攻撃を受けて抵抗したが郭援は南匈奴の援軍を呼んで激しく攻め立てた。賈逵は重要拠点の皮氏を固めるよう伝令を出した。城が陥落して賈逵は捕らえられると絳邑県の人士の請願により助けられた。高幹へ偽の計略を伝え、部下を迷わせて時間を稼ぎ皮氏は落ちず河東郡は敗北を免れた。<sup>八</sup></p> <p>蒲阪県令: 徐英。建安の初めに蒲阪県令となった。<sup>九</sup></p> <p>蒲阪県令: 嚴幹。司隸校尉に招聘されたが断り、後に孝廉に挙げられて蒲阪県令となったが病気で官を辞した。<sup>一〇</sup></p> <p>李楽と胡才は河東に留まったが胡才は仇に殺され李楽は病死した。<sup>一一</sup></p> <p>程銀・侯選・李堪は興平年間の乱の際には千家余りをまとめて割拠していた。</p>
弘農郡	<p>太守: 嚴幹。高幹を捕らえる策を立てた功績で弘農太守に昇進した。<sup>一二</sup></p> <p>澠池県令: 賈逵。高幹が反乱を起こした際に呼応していた張琰に知らずに面会に行った。捕らえられるのを防ぐために張琰のために計略を受け、張琰に城壁を修復させ、その城壁で守り切った。<sup>一三</sup></p> <p>張濟は飢えに苦しみ南陽で略奪し、穰を攻撃した際に戦死して甥の張繡がその軍勢を継いだ。<sup>一四</sup></p> <p>高幹が反乱を起こしたところ、張晟(張白騎)は劉表と結んで崤・崤に勢力を張った。また弘農太守は反乱軍に捕らえられた。<sup>一五</sup></p>
京兆尹	<p>司隸校尉: 鍾繇。曹操により侍中のまま司隸校尉を兼任し、長安に入ると馬騰・韓遂を説いて子を入質として参内させた。平陽で匈奴が反乱を起こし袁尚が郭援を援軍として送り込むと马超を率いて迎え撃ち、郭援を討ち取り匈奴を降伏させた。また高幹が反乱を起こし衛固・張晟・張琰らが呼応したがこれらを平定した。<sup>一六</sup></p> <p>京兆尹: 張時。杜畿が荊州から故郷の京兆に戻ると功曹に任命した。<sup>一七</sup></p> <p>新豊県令: 張既。曹操が司空となると張既を召し寄せたが到着しないうちに茂才に推挙されて新豊県令となった。治績は三輔で第一だった。鍾繇は張既に馬騰の説得を行わせ、馬騰は子の马超を派遣して鍾繇と马超は平陽で高幹・郭援と南匈奴単于(呼廚泉)を破り、郭援を討ち取り単于を降伏させた。<sup>一八</sup></p> <p>安陵県令: 楊俊。曲梁県令から丞相掾属となり、茂才に推挙されて安陵県令となった。後に南陽太守に遷った。<sup>一九</sup></p> <p>建安二年(197)、謁者僕射の裴茂に関中の諸将を率いさせて李傕を攻め滅ぼした。<sup>二〇</sup></p> <p>郭汜は部下の伍習に攻撃されて郿で死亡した。<sup>二一</sup></p> <p>李傕・郭汜の反乱の際、劉雄鳴の元に多くの人が集まった。建安年間に州郡に所属した。<sup>二二</sup></p>

一 三国志董卓伝

二 三国志武帝紀

三 三国志武帝紀

四 三国志賈逵伝注『魏略』

五 三国志鍾繇伝注『魏略』

六 三国志杜畿伝

七 三国志鍾繇伝

八 三国志賈逵伝

九 三国志張既伝注『魏略』

一〇 三国志裴潜伝注『魏略』

一一 三国志董卓伝

一二 三国志裴潜伝注『魏略』

一三 三国志賈逵伝

一四 三国志董卓伝

一五 三国志杜畿伝。ちなみに石井仁は「黒山・白波考」で張晟を

張白騎と同一としている。

一六 三国志鍾繇伝

一七 三国志杜畿伝注『魏略』

一八 三国志張既伝

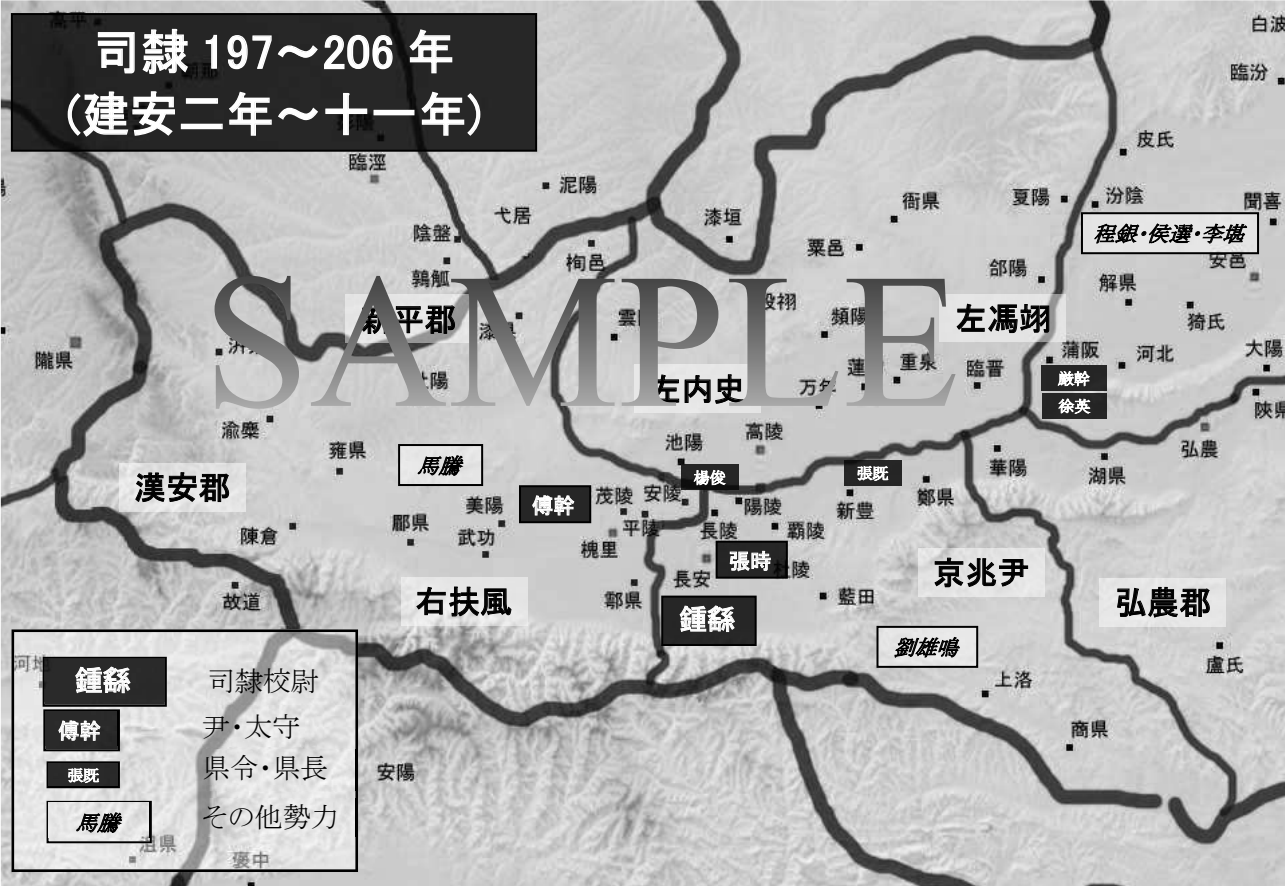
一九 三国志楊俊伝

二〇 三国志董卓伝

二一 三国志董卓伝

二二 三国志張魯伝注『魏略』

左馮翊	建安初、西部数県を分離して左内史郡とし、左馮翊の郡治は臨晋に置かれた。 <sup>一</sup>
左内史郡	建安初、左馮翊から西部数県を分離して左内史郡とし、左内史郡の郡治は高陵に置いた。 <sup>二</sup>
右扶風	太守: 傅幹 <sup>三</sup> 。内密に高幹・郭援と組んでいた馬騰を説得して鍾繇の味方とし、馬超を従軍させて郭援と戦わせた。 <sup>四</sup> 平陵県令: 李義。郡により上計掾に任命され、都に行った際にそのまま平陵県令に任命された。 <sup>五</sup>
漢安郡	
新平郡	



### 司隸関連年表(主に後漢書献帝紀より)

**建安三(198)年四月** 謁者の裴茂に中郎将段煨や関中の諸将を率いさせて李傕を討ち、その一族を皆殺しとした。  
**十一月** 大司馬の張楊は部下の楊醜に殺害された。  
**建安四(199)年四月** 楊醜を殺した眭固は袁紹に救援を求めたが曹操は曹仁と史渙を送り込んでこれを討ち取った。  
**建安五(200)年八月** 袁紹と曹操は官渡で戦い、曹操は烏巢の兵糧を焼いて袁紹を破った。  
**建安七(202)年** 袁尚は郭援を河東太守に任命し、并州刺史の高幹とともに南匈奴单于の呼厨泉が平陽で反乱を起こしたのを救援した。司隸校尉の鍾繇は馬超を率いて攻撃してこれを破り郭援を討ち取った。  
**建安九(204)年八月** 曹操は袁尚の将の審配が守る鄴を陥落させた。并州刺史高幹は曹操に帰順した。  
**建安十一(206)年三月** 反乱を起こした并州刺史の高幹を曹操は自ら討伐して破った。高幹は逃亡したが捕らえられて処刑された。

<sup>一</sup> 三国志裴潜伝注『魏略』

<sup>二</sup> 三国志裴潜伝注『魏略』

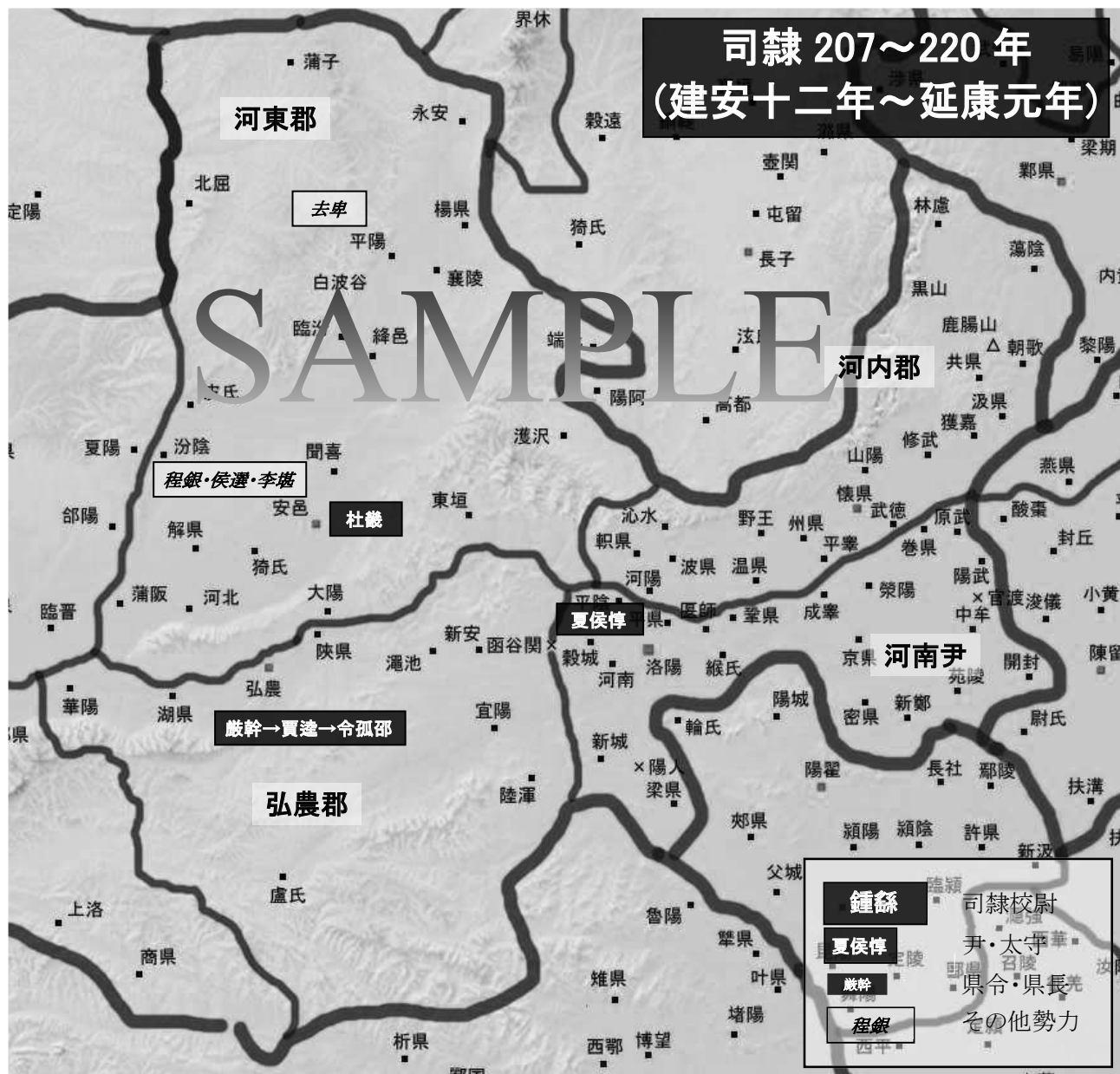
<sup>三</sup> 後漢書傅燮伝

<sup>四</sup> 三国志鍾繇伝注 司馬彪『戦

略』

<sup>五</sup> 三国志裴潜伝注『魏略』

## 司隸校尉部 建安十二(207)年～延康元(220)年



郡国名	太守・国相 域内の県令・県長など
河南尹	司隸校尉：鍾繇。建安十八年(213)、司隸校尉は廃止されて予州、冀州、雍州に分かれて属した。 <sup>一</sup> 魏が建国されると鍾繇は大理となり、後に相国となった。 <sup>二</sup> 河南尹：夏侯惇。 河南尹：龐迪。在任時期不明。扶風の人。邴原亡き後に清潔賢明として評された。 <sup>三</sup> 滎陽都尉：孫礼。河間の丞から滎陽都尉となり、魯国の相に転じた。 <sup>四</sup>
河内郡	
河東郡	太守：杜畿。天下の諸郡は荒れ果てたが河東の復・興が一番早かった。韓遂・馬超の反乱でも河東は安定しており、反乱が終わっても二十万石の備蓄が残っていた。張魯討伐の際には物資輸送に五千人を派遣したが逃亡者は誰も出なかった。河東を十六年治めたが常に天下第一の成績であった。

一 司馬彪『續漢書』百官五州郡

二 三国志鍾繇伝

### 三 三国志邴原伝

#### 四 三国志孫禮伝

	<p>蒲阪県令:游楚。蒲阪県令を務め、曹操が関中を平定すると漢興太守となり、さらに隴西太守に転任した。<sup>一</sup></p> <p>程銀・侯選・李堪は馬超の反乱に参加したが敗れ、李堪は戦死し程銀と侯選は張魯を頼った。張魯が曹操に降伏すると元の官爵を授けられた。<sup>三</sup></p>
弘農郡	<p>太守:厳幹。弘農太守であったが馬超が反乱を起こすと弘農の人民は反乱が近く離散した。馬超が敗れると漢陽太守に転任した。<sup>四</sup></p> <p>太守:賈逵。曹操が馬超討伐に向かう途中、弘農を通った際に賈逵を守弘農太守とした。兵を徴発する際に屯田都尉が逃亡民を匿っていると疑ったがその都尉が不遜な言葉を賈逵に吐いたため賈逵は怒って都尉の足を叩き折り免職となった。曹操は内心措置を良しとして丞相主簿とした。<sup>五</sup></p> <p>太守:令狐邵。丞相主簿から弘農太守に転じた。善を称えて教育を行い裁判を好まず下役を疑わなかった。配下で学びたい者は河東の樂詳の元で学ばせ学問は盛んとなった。<sup>六</sup></p> <p>馬超は関中の諸将と共に反乱を起こし潼関を押さえた。曹操は北の蒲阪津から徐晃を渡河させ、自らは潼関から黄河を北に渡った際に馬超の猛攻を受け、丁斐が牛馬を放って馬超軍の兵に奪わせたのでなんとか渡河できた。<sup>七</sup></p>
京兆尹	<p>京兆尹:張既。馬超が平定されると張既は京兆尹に任命された。流民を落ち着かせて県や村々を復興し人民に慕われた。魏国が設立されると雍州刺史となった。<sup>八</sup></p> <p>雍州刺史:張既。曹操の張魯討伐に従軍し別道から散関を通って氏族を破った。張魯が降伏すると曹操に漢中の民を三輔に移住させるべきと進言した。夏侯淵と共に宋建を討伐し別動隊として臨洮・狄道を攻略した。漢中からの撤退時には武都から氏族五万戸を率いて扶風・天水の郡境に移住させた。建安末に河西が騒乱状態となり武威の顔俊が母親を人質として送り曹操に救援を求めると張既は曹操に河西の軍閥たちを争わせておいて共倒れを待つべきと進言した。<sup>九</sup></p> <p>京兆尹:楊沛。関中を破ると張既に代って京兆尹となった。黄初年間に儒学の教養がある者が任用され楊沛は議郎となり閑をかこった。<sup>一〇</sup></p> <p>京兆尹:鄭渾。曹操が漢中を討伐する際に京兆尹となった。集まってくる人民を管理するための法を整備し農業を奨励して盗賊は消えた。漢中への食糧輸送で功績を上げ、漢中に人民を送り込んで耕作させたが逃亡者はいなかった。曹操は中央に呼び戻して丞相掾とした。<sup>一一</sup></p> <p>建安十八年(213)、司隸校尉が廃止されて雍州が設置され、弘農、京兆、左馮翊、右扶風、漢興は雍州に所属した。<sup>一二</sup></p> <p>曹操は渭水を渡り渭南で馬超軍と対峙した。曹操は馬超・韓遂と単騎で会見を行い二人の間に不信を生み、後に日を定めて会戦を行って馬超らを打ち破った。<sup>一三</sup></p> <p>劉雄鳴は馬超の反乱に従わなかったので馬超の攻撃を受けて敗れ曹操を頼った。曹操は劉雄鳴に部下を迎えに行かせたが部下が劉雄鳴を立てて反乱を起こし武関の街道口に籠った。夏侯淵に討伐されて劉雄鳴は曹操に降り元の官爵を与えられて渤海に移住させられた。<sup>一四</sup>劉雄鳴は南山に拠った。<sup>一五</sup></p>
左馮翊	<p>太守:邢顒。丞相門下督から左馮翊となったが病気で官を去った。<sup>一六</sup></p> <p>太守:鄭渚。丞相掾属から左馮翊となった。梁興が官民五千家を率いて暴れていたが鄭渚は人民をまとめて賊から捕獲したものの七割を与えると触れ、人民は争って賊を攻撃したので梁興は弱体化した。夏侯淵の援軍を得て梁興を討ち取った。賊の靳富が夏陽県令と邵陵県令を脅迫して反乱を起こさせ磴山に籠ると鄭渚はこれを討伐して斬りさらわれた者たちを取り返した。上党太守に転じた。<sup>一七</sup></p> <p>延康元(220)年五月、馮翊の山賊の鄭甘と王照が盧水胡と共に帰順し、列侯に取り立てられた。<sup>一八</sup></p>
左内史	太守:程休。趙青龍に殺害された。左馮翊の鄭渚は趙青龍を捕らえてさらし首にした。 <sup>一九</sup>
右扶風	<p>太守:傅幹。在任時期不明。</p> <p>太守・関中都護:趙儼。丞相主簿から転じて扶風太守となった。韓遂・馬超の元部下を平難將軍殷署に率いさせ趙儼は関中護軍として諸郡を指揮した。呂並が將軍を自称して陳倉に籠ると趙儼は殷署</p>

一 三国志杜畿伝

二 三国志張既伝注『三輔決録注』

三 三国志張魯伝『魏略』

四 三国志裴潜伝注『魏略』

五 三国志賈逵伝

六 三国志倉慈伝注『魏略』

七 三国志武帝紀

八 三国志張既伝

九 三国志張既伝

一〇 三国志賈逵伝注『魏略』

一一 三国志鄭渚伝

一二 司馬彪『統漢書』百官五州郡

一三 三国志武帝紀

一四 三国志張魯伝注『魏略』

一五 三国志夏侯淵伝

一六 三国志邢顒伝

一七 三国志鄭渚伝

一八 三国志文帝紀、注『魏書』

一九 三国志鄭渚伝



	を率いてこれを平定した。樊で曹仁が関羽に包囲されると議郎として従軍して徐晃に数々の助言を行い援軍を成功させた。 <sup>一</sup> 建安十七(212)年、夏侯淵は南山で劉雄鳴を、鄠県で梁興を破った。 <sup>二</sup>
漢興郡	太守:游楚。蒲阪県令を務め、曹操が関中を平定すると漢興太守となり、さらに隴西太守に転任した。
新平郡	羌族の侵攻を度々受けており、関中護軍の趙儼は殷署らを率いて新平で破った。 <sup>三</sup>



### 司隸・雍州関連年表(主に三国志武帝紀、後漢書献帝紀より)

建安十六(211)年九月 曹操は渭南で马超・韓遂と戦いこれを破った。

建安十七(212)年五月 衛尉の馬騰とその一族を誅殺した。

建安十八年(213)正月 州を再編成して禹の時代の九州にまとめた。司隸校尉を廃止して冀州、予州、雍州に分けた。

五月 曹操が魏公となった。

建安二十(215)年三月 曹操は張魯を討伐するために陳倉から武都に入った。

建安二十一(216)年四月 曹操が魏王となった。

七月 匈奴の南单于(呼廚泉)が来朝した。

建安二十三(218)年九月 曹操は漢中にいる劉備を討つために長安に到着した。

建安二十四(219)年三月 劉備が漢中で夏侯淵を打ち取ったので曹操は自ら長安を出て漢中に入った。

五月 曹操は劉備の抵抗を受けて漢中を放棄して長安に帰還した。

<sup>一</sup> 三国志趙儼伝

<sup>二</sup> 三国志夏侯淵伝

<sup>三</sup> 三国志趙儼伝



十月 曹操は洛陽に着き、孫権の関羽攻撃を受け入れてこれを助けるために南下したが、孫権が関羽を討ち取ったため摩陂に駐屯した。

建安二十五(220)年正月 曹操は洛陽に戻った。孫権が関羽の首を送ってきた。曹操は死去し、曹丕が跡を継いだ。

三月 延康に改元した。

十月 曹丕は献帝より禅譲を受けて魏の皇帝に即位した。献帝は山陽公となった。

## 司隸校尉部 郡県データ・出身者一覧

※三国志か後漢書に伝がある人物は出典はその列伝ですので脚注を省略しています(今後の他の州も同様)。

郡国名	県名	主な出身者
河南尹	城域:21 戸数:208,486 人口:1,018,127	
	祝公道 <sup>一</sup> 、張奮 <sup>二</sup> 、向秀 <sup>三</sup> 、潘勖 <sup>四</sup> 、杜夔 <sup>五</sup> 、邵登 <sup>六</sup> 、張泰 <sup>七</sup> 、桑馥 <sup>八</sup> 、龐羲 <sup>九</sup> 、張梁 <sup>一〇</sup> 、徽崇 <sup>一一</sup> 、趙達 <sup>一二</sup> 、単超 <sup>一三</sup> 、単安 <sup>一四</sup> 、単匡 <sup>一五</sup> 、楽羊子 <sup>一六</sup> 、董皇后 <sup>一七</sup> 、董重 <sup>一八</sup>	
	洛陽県	种暭 <sup>一九</sup> 、种弘 <sup>二〇</sup> 、种劭 <sup>二一</sup> 、孟光 <sup>二二</sup>
	河南県	
	梁県	
	滎陽県	服虔 <sup>二三</sup> 、楊暨 <sup>二四</sup> 、楊肇 <sup>二五</sup>
	卷県	
	原武県	
	陽武県	
	中牟県	任峻 <sup>二六</sup>
	開封県	鄭興 <sup>二七</sup> 、鄭泰 <sup>二八</sup> 、鄭渾 <sup>二九</sup>
	苑陵県	
	平陰県	曹丕は河陰と改名した
	穀城県	函谷関がある
	緱氏県	轅轅関がある。龐参 <sup>三〇</sup>
	鞏県	尹勲 <sup>三一</sup>
	成寧県	呂強 <sup>三二</sup> 、呂伯奢 <sup>三三</sup>
	京県	
	密県	侯霸 <sup>三四</sup>
	新城県	
	偃師県	郗儉 <sup>三五</sup> 、郗正 <sup>三六</sup>
	新鄭県	
	平県	

河内郡	城域:18 戸数:159,770 人口:815,158	毛氏 <sup>三七</sup> 、虞氏 <sup>三八</sup> 、朱漢 <sup>三九</sup> 、張烟 <sup>四〇</sup> 、郝萌 <sup>四一</sup> 、韓浩 <sup>四二</sup> 、向雄 <sup>四三</sup> 、周生 <sup>四四</sup> 、趙威孫 <sup>四五</sup> 、趙咨 <sup>四六</sup> 、張晟 <sup>四七</sup> 、荀緯 <sup>四八</sup> 、王象 <sup>四九</sup> 、審固 <sup>五〇</sup> 、衛恂 <sup>五一</sup> 、陰溥 <sup>五二</sup> 、趙商 <sup>五三</sup> 、張成 <sup>五四</sup>
	懷県	山濤 <sup>五五</sup> 、蔡茂 <sup>五六</sup> 、李章 <sup>五七</sup>
	河陽県	張玄 <sup>五八</sup>
	軹県	
	波県	
	沁水県	
	野王県	太行山がある
	温県	司馬防 <sup>五九</sup> 、司馬朗 <sup>六〇</sup> 、司馬懿 <sup>六一</sup> 、司馬師 <sup>六二</sup> 、司馬昭 <sup>六三</sup> 、司馬炎 <sup>六四</sup> 、司馬芝 <sup>六五</sup> 、司馬岐 <sup>六六</sup> 、常林 <sup>六七</sup>
	州県	
	平輦県	
	山陽邑	
	武徳県	
	獲嘉侯国	楊俊 <sup>六八</sup>
	脩武県	張延 <sup>六九</sup> 、張範 <sup>七〇</sup> 、張承 <sup>七一</sup> 、張昭 <sup>七二</sup> 、衛觐 <sup>七三</sup>
	共県	
	汲県	杜詩 <sup>七四</sup>
	朝歌県	向栩 <sup>七五</sup> 、向長 <sup>七六</sup>
	蕩陰県	
	林慮県	鉄がでる。杜喬 <sup>七七</sup>
河東郡	城域:20 戸数:93,543 人口:570,803	

一 三国志賈逵伝  
二 三国志任峻伝  
三 三国志王粲伝  
四 三国志衛凱伝  
五 三国志杜夔伝  
六 三国志劉焉伝  
七 三国志孫静伝  
八 三国志程秉伝  
九 後漢書宦者列伝  
一〇 後漢書列女伝  
一一 後漢書皇后紀  
一二 後漢書儒林列伝  
一三 三国志満寵伝

一四 後漢書党錮列伝  
一五 後漢書宦者列伝  
一六 三国志武帝紀  
一七 三国志后妃伝  
一八 三国志袁紹伝  
一九 三国志袁術伝  
二〇 三国志呂布伝  
二一 三国志夏侯惇伝  
二二 三国志夏侯尚伝  
二三 三国志華歆伝  
二四 三国志司馬朗伝  
二五 三国志張既伝  
二六 三国志衛凱伝

二七 三国志楊俊伝  
二八 三国志劉璋伝  
二九 後漢書鄭玄伝  
三〇 後漢書党錮列伝  
三一 三国志王粲伝  
三二 後漢書酷吏列伝  
三三 後漢書儒林列伝  
三四 三国志司馬芝伝・司馬朗伝、晋書宣帝紀  
三五 三国志張範伝  
三六 後漢書循吏列伝  
三七 後漢書独行列伝  
三八 後漢書逸民列伝

董尋 <sup>二</sup> 、程銀・侯選・李堪 <sup>三</sup> 、焦先・侯武陽・董經 <sup>三</sup> 、衛固・范先 <sup>四</sup> 、張時 <sup>五</sup> 、杜摯 <sup>六</sup> 、樂詳 <sup>七</sup> 、上官崇 <sup>八</sup> 、王喬 <sup>九</sup> 、衛仲道 <sup>一〇</sup>		
	安邑県	鉄がでる、塩池がある。 衛覬・衛瓘
	楊県	徐晃
	平陽侯国	鉄がでる
	臨汾県	
	汾陰県	
	蒲坂県	
	大陽県	
	解県	関羽・関興・関平
	皮氏県	鉄がでる
	聞喜邑	裴茂・裴潜・裴秀・裴徽、裴儁 <sup>一一</sup> 毋丘興・毋丘儉・毋丘甸・毋丘秀
	絳邑県	
	永安県	
	河北県	
	猗氏県	
	垣県	
	襄陵県	賈逵・賈充
	北屈県	
	蒲子県	
	漢沢侯国	
	端氏県	
弘農郡 城域:9 戸数:46,815 人口:199,113		
張奐・張芝・張昶 <sup>一二</sup> 、董遇 <sup>一三</sup> 、張琰 <sup>一四</sup> 、董芬 <sup>一五</sup>		
	弘農県	曹陽亭があり、献帝はここで李傕と戦い敗れた。
	陝県	成瑨 <sup>一六</sup>
	黽池県	
	宜陽県	

	新安県	
	陸渾県	
	盧氏県	
	湖県	元は京兆尹に属した
	華陰県	元は京兆尹に属した。太華山がある。楊震・楊賜・楊彪・楊脩、劉寛・劉松
京兆尹 城域:10 戸数:53,299 人口:285,574		
(下邳県)王丹 金尚・金璋 <sup>一七</sup> 、段熲 <sup>一八</sup> 、嚴象、脂習 <sup>一九</sup> 、扈累 <sup>二〇</sup> 、陳禧 <sup>二一</sup> 、游殷・游楚 <sup>二二</sup> 、金旋・金禧 <sup>二三</sup> 、楊政 <sup>二四</sup> 、高望 <sup>二五</sup>		
	長安県	前漢の都だった。宋弘、宋登 <sup>二六</sup>
	霸陵県	蘇順 <sup>二七</sup> 、韓康 <sup>二八</sup>
	杜陵県	杜畿・杜恕・杜預、馮衍、廉范、張純、杜篤 <sup>二九</sup> 、韋端・韋康・韋誕 <sup>三〇</sup>
	鄭県	
	新豊県	賈洪 <sup>三一</sup> 、鮑出 <sup>三二</sup>
	藍田県	美玉が出る。劉雄鳴 <sup>三三</sup>
	長陵県	元は馮翊郡に属した。 趙戩 <sup>三四</sup> 、第五倫・第五種、樂恢、趙岐、第五訪 <sup>三五</sup> 、第五文休 <sup>三六</sup>
	商県	元は弘農郡に属した
	上雒侯国	元は弘農郡に属した
	陽陵県	元は馮翊郡に属した
左馮翊 城域:13 戸数:37,090 人口:145,195		
馮翊の名士:桓、田、吉、郭 <sup>三七</sup> (櫟陽県)景丹 (東県)嚴幹・李義・李豊 <sup>三八</sup> 山子道 <sup>三九</sup> 、鄭甘・王照 <sup>四〇</sup> 、楊偉 <sup>四一</sup> 、徐英 <sup>四二</sup> 、嚴苞 <sup>四三</sup> 、靳富・趙青龍 <sup>四四</sup> 、王琰・王嘉 <sup>四五</sup> 、鄭文信 <sup>四六</sup> 、郭		

<sup>一</sup> 三国志明帝紀  
<sup>二</sup> 三国志張魯伝  
<sup>三</sup> 三国志華歆伝  
<sup>四</sup> 三国志杜畿伝  
<sup>五</sup> 三国志張既伝  
<sup>六</sup> 三国志劉劭伝  
<sup>七</sup> 後漢書儒林列伝  
<sup>八</sup> 三国志王昶伝  
<sup>九</sup> 後漢書方術列伝  
<sup>一〇</sup> 後漢書列女伝  
<sup>一一</sup> 三国志孟光伝  
<sup>一二</sup> 後漢書張奐伝によれば元々は敦煌郡の人だったが弘農に移住した。  
<sup>一三</sup> 三国志王朗伝  
<sup>一四</sup> 三国志張既伝  
<sup>一五</sup> 三国志華佗伝

<sup>一六</sup> 後漢書陳蕃伝  
<sup>一七</sup> 三国志武帝紀、呂布伝  
<sup>一八</sup> 三国志夏侯惇伝  
<sup>一九</sup> 三国志王脩伝  
<sup>二〇</sup> 三国志華歆伝  
<sup>二一</sup> 三国志王朗伝  
<sup>二二</sup> 三国志張既伝  
<sup>二三</sup> 三国志先主伝  
<sup>二四</sup> 後漢書儒林列伝  
<sup>二五</sup> 後漢書蓋勲伝  
<sup>二六</sup> 後漢書儒林列伝  
<sup>二七</sup> 後漢書儒林列伝  
<sup>二八</sup> 後漢書逸民列伝  
<sup>二九</sup> 後漢書文苑列伝  
<sup>三〇</sup> 三国志荀彧伝  
<sup>三一</sup> 三国志王朗伝  
<sup>三二</sup> 三国志龐涓伝

<sup>三三</sup> 三国志張魯伝  
<sup>三四</sup> 三国志先主伝、後漢書趙岐伝  
<sup>三五</sup> 後漢書儒林列伝  
<sup>三六</sup> 三国志呂布伝  
<sup>三七</sup> 三国志裴潜伝注『魏略』  
<sup>三八</sup> 三国志裴潜伝  
<sup>三九</sup> 三国志武帝紀  
<sup>四〇</sup> 三国志文帝紀  
<sup>四一</sup> 三国志曹真伝  
<sup>四二</sup> 三国志張既伝  
<sup>四三</sup> 三国志王朗伝  
<sup>四四</sup> 三国志鄭渾伝  
<sup>四五</sup> 三国志常林伝  
<sup>四六</sup> 三国志裴潜伝

典 <sup>一</sup>		
	高陵県	張既・張緝
	池陽県	羌族を避けるため北地郡を池陽に移した。 <sup>二</sup> 吉茂・吉黄・吉本 <sup>三</sup>
	雲陽県	宣秉、王隆 <sup>四</sup>
	祿福県	
	頻陽県	
	万年県	楊沛 <sup>五</sup>
	蓮勺県	
	重泉県	
	臨晋県	
	郃陽県	
	夏陽県	
	衙県	
	栗邑県	
右扶風 城域:15 戸数:17,352 人口:93,091		
王忠 <sup>六</sup> 、孟他・孟達 <sup>七</sup> 、士孫瑞 <sup>八</sup> 、士孫奮 <sup>九</sup> 、魯芝 <sup>一〇</sup> 、龐迪 <sup>一一</sup> 、龐延 <sup>一二</sup> 、射堅・射援 <sup>一三</sup> 、宋果 <sup>一四</sup> 、鮑鴻 <sup>一五</sup> 、魏齊卿 <sup>一六</sup> 、宋臯 <sup>一七</sup>		
	槐里県	
	安陵県	
	平陵県	左綰・左敏 <sup>一八</sup> 、竇融、張湛、

		蘇竟、蘇章、賈逵、何敞、班超・班昭、竇武・竇輔、梁鴻 <sup>一九</sup> 、宋皇后 <sup>二〇</sup>
	茂陵県	馬鈞 <sup>二一</sup> 、馬騰・馬超・馬休・馬鉄・馬岱 <sup>二二</sup> 、馬援、馬融・馬日磾、馬倫・馬芝 <sup>二三</sup> 、公孫述、耿弇、万修、魯恭・魯旭、韋彪・韋著、杜林・申屠剛、郭伋、孔奮、班彪・班固、秦彭 <sup>二四</sup> 、傅毅 <sup>二五</sup>
	鄠県	
	郿県	法雄・法真・法正、井丹 <sup>二六</sup>
	武功県	斜谷がある。蘇則
	陳倉県	
	汧県	
	渝麋侯国	
	雍県	鉄がでる
	枸邑県	
	美陽県	羌族を避けるため安定郡を美陽に移した。 <sup>二七</sup>
	漆県	鉄がでる。李育 <sup>二八</sup>
	杜陽県	

一 後漢書皇甫嵩伝

二 後漢書西羌伝

三 三国志常林伝

四 後漢書文苑列伝

五 三国志賈逵伝

六 三国志武帝紀

七 三国志明帝紀、後漢書宦者列

伝

八 三国志董卓伝

九 後漢書梁冀伝

一〇 三国志曹真伝

一一 三国志邴原伝

一二 三国志張既伝

一三 三国志先主伝

一四 後漢書郭泰伝

一五 後漢書董卓伝

一六 後漢書党錮列伝

一七 後漢書蓋勲伝

一八 後漢書宦者列伝

一九 後漢書逸民列伝

二〇 後漢書皇后紀

二一 三国志杜夔伝

二二 三国志馬超伝

二三 後漢書列女伝

二四 後漢書循吏列伝

二五 後漢書文苑列伝

二六 後漢書逸民列伝

二七 後漢書西羌伝

二八 後漢書儒林列伝